
つくばみらい市立三島小学校区における意見交換会

《 平成 28 年 12 月 13 日（火）午後 7 時 00 分～ 三島小学校体育館 》

1. あいさつ

2. これまでの経緯

3. 『つくばみらい市義務教育施設適正配置基本計画』について

4. 今後の進め方について

事務局： それでは、2. これまでの経緯、3. 『つくばみらい市義務教育施設適正配置基本計画』について、4. 今後の進め方について事務局よりご説明いたします。

《事務局から説明》

5 質問・意見交換

事務局： 事務局からの説明は以上となります。それでは、これまでの説明につきましてご意見、質問等を頂きたいと思います。

市民： 私からは何点かあるが、とりあえず一点目だけ。スケジュールにも関係してくると思うが、合意形成というのは、どういう時点をもって合意とするのか、具体的な合意のイメージを教えてください。前回の説明会で、合意形成の方法はどう考えているのかという質問に対し、市は“アンケート等をとっての具体的な数値ではなく、話し合いの中で客観的な気運が高まったとき”と答えられたが、“客観的な気運”とはどういう状態をさしているのか。例えば、合意形成というのは、みんなでアンケートを取るという方法もあるかもしれない。もちろん、私たちの代表である議会というものもあるので、議会での合意なのかもしれないし、その他の方法があるのかもしれない。合意形成という部分をクリアしないと先ほどのスケジュールは一步も進まないと思う。現時点で合意形成をどのように考えているのかを事務局の方にお答え頂きたい。また、コンサルタントの方がいらっしゃるので他の自治体では、どのように合意としていたのか事例をお話して頂きたい。その二点をお願いいたします。

事務局： まず、合意形成の判断については、当然ながら皆さま全員が、統廃合に賛成、または、やむを得ないということになることは難しいと思う。賛成の方もいらっしゃるし、反対の方もいらっしゃる。当然、このような場を何回も設け、皆さまが統廃合に関して不安に思っている事を色々ご意見うかがい、その不安を解決していきたい。

昨年度は、計画を作成するにあたって皆さまから色々な意見を聞きながら、子どもたちにとってより良い教育環境というものは、どういうものかという所を審議委員の皆さまと考えながら計画をまとめてきた。この計画を強制的に進めるつもりは全くなく、

皆さまと話し合いながらどういう順番でどういう風な形で進めていけば良いかと思っている。今、問題になっているのは、少子化で、クラスにおいては学年や男女比のバランスが悪くなってきている。非常に環境としてあまり良くない状態。その辺を何とかしていい方向にもっていくために、保護者の方や地域の方々と一緒になって三島小学校の子どもたちに対して「少子化に向けての対策がこのままで本当にいいのだろうか」と、真剣になって考えて頂くスタートの場と思っている。

やはり（学校に通う子どもやその保護者としては）谷井田小学校と統合するのは、谷井田小学校の状況も良くわからないし、非常に不安だという方もたくさんおられると思う。距離的に近くなる人もいるかもしれないが、三島小学校地区は遠くになってしまう。通学路の整備についてもどうしたらいいのかと、そういう細かい悩み事もいっぱいあると思う。それらを一つひとつどうしたらいいか、みんなで話し合い、妥協点を見つけながら話し合いを重ねていく、理解を深めていく。その上で、最終的に、保護者として賛成・反対と言えるのかなと思う。

もう一つは地域の人。明治の頃に、この学校が出来、みんなここに住んでいる人は三島小学校の卒業生で、母校であるという事。それから、地域の核としての小学校。小学校の運動会の時、みんなが楽しみながら交流をしていた。そういったものがある中で、地域の方々と話を進めながら、「今の子どもたちがかわいそうだから、やはりなんとかしなくちゃならない」というような雰囲気、合意形成という風に言葉で表現している。数字的に賛成・反対とするものではなく。非常に苦しい状況だが、これからPTAと話し合って頂きながら、進めていきたいと考えている。

コンサル： 実例を言うと、統廃合の話でやはり反対される人はいつまでも反対を続ける方も多い。教育者の意見、教育を享受する方の意見、地域として残してほしいという地域の人からの意見と、三者三様の意見が出る。やはり、優先されるべきは教育を受ける方の意見が大事だろうと考えているが、その中で、例えばやり方としては、保護者の方に集まって頂いて「よし」という風になれば、それはそれで合意と判断し進める事もある。しかし、地域の声もあるので、どこまで詰めて進めるのかという事もある。かすみがうら市では、一度、合意を得た後にやっぱり駄目だという事で、統廃合のやり直しをしたという事例もある。その辺については、丁寧にご説明を差し上げていきたい。なかなか進まない中で合意に進める場合は、例えば他の自治体では、代表の長、そういった方々に最終的に集まりいただいて決めて頂くということをする事もある。ただ、皆さまのご意見が色々ある中で、そこに対して強引に進めると空回りしてしまう事もあるので、基本的には、皆さまと色々な事を話し合い、一緒に検討していきたいと思っている。他の自治体では、そういった意見に重みをつけて、差をつけて決めていくという事をやっている自治体もある。色々な事を丁寧に、話を進めていこうというところを基本のスタンスでやっていきたい。

市 民： 今日ここに来ている皆さんが一番聞きたい部分は合意形成という事かなと思ったので、あえて質問をさせて頂いた。

私は基本的には統合する事には賛成。何故かというのは事務局がおっしゃっている通り。一方で、三島小や豊小を残すとかそういう小さい次元の話ではなく、3つの学校を統合し

てこういう新しい学校を作るのだという意味を示してほしい。恐らく、それが無いから不安が消えない。三島小が無くなり豊小が無くなるという事は、私から言うのとどれも小さな意見。本当に子どもたちの事を思うのであれば、3つの学校を統合して「こういう学校を新しく作りたい」と、それを明確に市がビジョンとして示してくれれば、多分、私たちの不安というのは払拭されるのではないか。どういう学校になるのか見えないから不安が残っている。皆さんが、谷井田小はこうだ、と勝手な推測があるから不安が不安を呼んでしまう。結局、その不安は伊奈中に行ってしまうと一緒にになるので同じ事。学校の名前が決まっているわけではないが、だったら3校統合して、新しい学校をこういう風につくりますと、つくばみらい市の新しい学校をつくる、と言っていたければ保護者は一番納得するだろう。残念ながらビジョンの中にそういった内容はない。統合しますと言うだけでなく、統合した後の具体的な案を出して欲しい。そんなに具体的でなくてもいいが、新しい学校3校統合したら「こうなしてほしい」「こういう学校を市がつくれます」「こういう学校として特色を出します」と提示していただけるとありがたい。恐らく地域の住民もエゴで学校を残したいと言っているわけではない。さみしい気持ちもあるが、将来の子どもたちのために何が大事かといえば、それはずっと教師の言っているとおりで、誰もそれについては反対をしないはず。ただ感情論が残っていて、その感情論を払拭するためには、こういう明るい未来があるという事、学校が「こういう学校をつくれますよ」という提示すること。今はそれが市の方から全く出てこない。これが多分一番不安を煽っていると思う。それを早急に出してほしい。「こういう学校にします、こういう学校だから、新しい学校をつくりましょうよ」というようなメッセージがほしい。意見みたいになったが、今日お返事をという事ではなく、またこれから先、説明会をやるときに3つ統合した時に「こんな学校にします」というのを学校側からいただければと思う。

事務局：　ここ何年かで、統廃合については県内でも非常に加速している状況。

先ほど説明した「これからの進め方」の中でもあったように、まずお互いの学校を知る事から始める。谷井田小、豊小、三島小が平成32年度統合目標であれば、まず29年度はこんな事をやろうという具合に。その様子を見てみると、まずお互いの学校を紹介しあったり、ちょっとした行事を一緒にやってみたりしている。みんなで作り上げていこうと各校の保護者や先生方が一同に集まり、準備委員会という形で進めている。

6pで説明した小規模校と大規模校のメリット・デメリットについて、大規模校に書いてあるデメリットは、頑張れば努力すればなんとかクリアする事ができるが、小規模校のデメリットは相当頑張っても解決することは難しいと思う。来年の三島小の1年生は9人で、そのうち男の子は1人とのこと。他の学校でもそういったことが起こっており、非常にバランスの悪い学年があるのが現状。もう少し人数がいればなんとかなるんじゃないか、この子をなんとかしてあげたいという気持ちになる。隣り合っている学校が一緒になり、将来必要な力をつけさせてあげたい。中学に行けばある程度人数が集まるから、小学校のうちは良いのではないかと思うかもしれないが、そこまで待ってもいられない。今まさに、子どもたちにつけてあげなければならない力というものがある。将来にわたって大いに影響するものがたくさんある。一言でいえば社会性という言葉になるが。私は去年、合意形

成の話をした時にもお願いしているが、こういった機会以外にも、PTAや保護者会の時に、今、統廃合という事で話が進んでいるけれども、子ども達のためには「どうなのか」という話を、保護者や地域の方も含め、子どもを中心に考えて話し合いをしてほしい。また、何度か会を開かせて頂いて皆さまのご意見を頂きたい。年度はあくまで計画なので、合意形成については、それが図れるような形で話を進めて行ければと思っている。

事務局：先ほどの統合した場合のビジョン、または考え方については、当然、皆さん一緒に谷井田小学校の事も知って頂かなくてはならないし、豊小学校の事も考えていかなければならない。三者のいいところ取りをしながら、一つの新しい学校として築いていき、歴史を重ねていくというような事が、一番当たり障りが無いと思う。

行政的なものの見方で考えると、小中一貫教育という考えがある。同じ場所ではないが、つくばみらい市は茨城県内でも3番目くらい早くから取り組んでおり、中学校との交流も盛んにやっている。仮に3校が統合して一つの新しい学校となれば、「伊奈中学校＝その新しい小学校」という事になり、一貫教育の進め方として、より細かく丁寧に対応する事ができる。3校あるよりは1校で、中学校との距離は離れていても教育を一貫して行う事が非常に大事で、高校へつなげられるということは大切なことと思うので、我々としては一生懸命頑張っていきたい。

市民：スクールバスが有料になるという話があると思うが、統廃合がどうこうというのももちろん大事ではあるけれども、統廃合の決定の後に実はこういう事もあるという、後出しのような感じで出てきてしまうのは、よくないと思う。資料2の、P4、4の5項目『小学校の学校再編に伴う遠距離通学への対応』というのがあるが、これもやっぱり努力義務。そうすると、統廃合が決まった後に「スクールバスはこの位の値段になります」と言われても、そこから反対するのはなかなか難しい。そう考えると、遠くから通う方たちの安全確保や通学路の提示などの具体的などころを、この計画に沿ってやるのであれば先に示したほうがよいと思う。また、細かい所も併せて並行的に進めていくべき。ここまで大きな枠組みが決まっているのであれば、ここに少しずつ肉付けをしていくのはどうか。

事務局：まさに、統合する場合に通学路の安全はどうか、バスは出してくれるのか等、今後いろんな問題が出てくると思う。例えば、体操着や洋服や名札などの備品関係についても色々細かい事があると思う。こういったことがネックになっていて、統合に不安という事であれば、これからの話の中で進めていかなければならない。バスを出すとなった場合、バス停はどこにできるのかなど具体的に進めていきたい。今日は、保護者だけではなく、地域の方の参加も呼びかけてはいたが、それについては、保護者の皆さまと、そして、これから保護者になろうとしている未就学児の保護者の方を含めてみんなで話し合っていきたい。

地域としては、三島小でなくなってしまうのであれば跡地はどうなるのか、どういう使い方になるのかなとか、こういうふうにならないのかななどの要望・考え方があると思うが、これについても一緒に考えていかなければならないと思う。今回はスタートという事ではあるが、保護者の方からもっと早く、東小と同じように話し合いを進めたいという事であれば、こちらもそのようにしたいと思う。有料なのであれば、100円なのか50円

なのかいくらなのか、という具体的な数字を出さなくてはならない。または、無料にして欲しいなど。バスを出す際はどこまでバスを出すのか、全部回ってくれるのか、どこにバス停を作ってもらえるのかなど、色々細かい事がある。また、谷井田小学校はどんな学校か、どんな保護者がいて、どんな児童がいる、など色々不安がいっぱいあると思う。今後、交流をしていきながら解決していきたいと思うが、その前に皆さまの不安を出して、話し合っていきたい。話し合いをしていく中で、このまま統合がいいか、統合しないでこのままの方がいいのかという判断材料にもなると思う。それらも一つ一つ解決していきたいと思っている。

市 民： 検討するのに具体的に材料がほしいという事について、もう一点。跡地利用についてだが、基本的には、地域のコミュニティに使うという話が出ているが、現実問題この学校の維持に費用がどれくらいかかるのか積算してほしい。税金の負担になり、もっというと、将来子どもたちが負担していく税金になる。三島小をコミュニティ施設とした場合、維持費は誰がどう負担していくのかは、非常に大きな問題と思う。校舎については、生徒が1人でもいたら耐震工事をするという話だったのに、今度は（生徒がいなくなった状態でも）耐震工事をしたから残すというのはおかしい。極論になるが、壊したっていいと思う。グラウンドについても、草が生えたら誰が草取りするのか。ボランティアに頼むのか、市の方で出すお金で賄うのか、業者を頼むのか。いずれにせよ、ハードな施設を造った以上は維持費が必要になってくる。私たちが議論して案を出してほしいというのはわかるが、そのための検討材料を出してほしい。もちろん、決定したからという事ではなくて、あくまで事務局で積算した場合、費用がどれくらいになるのか。例え話で言って頂ければ、将来的に学校をどう活用していこうかという案が出しやすくなると思う。地域住民のコミュニティスペースとして、こんなに広いスペース誰が使うのか。実際こんなに広いスペースを使わないと思う。ただ、自分には案が無いからそう思うが、何かコンペをやって、すごい人が来ていい案が出してくれば来るかもしれないけれども、それでも3階まで埋まるほど行事はないと思う。将来、施設を負担していく側からすると非常に大きな問題だと思うので、データとしてお示しいただければ助かる。今後、統合の話とともに跡地利用という事についても一緒に進めていって頂きたい。統合した後、跡地の事を考えましようという、多分ずっとほったらかしになって名実ともに廃校になってしまう。それを地域住民は望んでないと思うので、お忙しいと思うが、同時並行で進めて頂ければと思う。

事務局： 耐震化とリニューアルを行って全部きれいにしているので、この施設をこのままなんらかの形で利用していく事が一番理想の形である。これを壊して違う用途にするというのは、考えられない事もないが、それは一番最後の案となる。

今後、具体的な施設の利用については、我々、教育委員会の考え方もあるし、つくばみらい市としての考え方もある。例えば、福祉の関係の部署などがある。全体として考えられる事があるかどうか、地域の皆さんと話し合いながら、最終的には議会の皆さんの了解をもらった上で、この施設の用途を考えて進めていきたい。

一方で何も考えが無い場合、他の自治体では売りに出したり貸しに出したり、又は企業に来て頂いて研修所にしてもらうように募集をかけているような自治体もあるが、つくば

みらい市としては今のところそのような考えはなく、なるべく行政で使いたいと思っている。学校ではなくなるかもしれないが、そうでない用途で使いたいという風には考えている。統合がいつ頃なのか、それが計画通り進むのかどうかも未確定なままなので、並行して皆さまの意見を聞きながら進めていきたい。内情を言うといろいろある。例えば、すみれ幼稚園も老朽化しているので、この幼稚園も建て替えをしようか、耐震補強だけでいいのか、という問題もあり、今後、教育委員会の中でも検討していかなくてはならないといった状況がある。そういった諸々も含めて施設利用をしていきたい。維持費については、職員もおりますので、1校あたり毎年3千万くらいかかっていると思うが、違う用途として考えると、お金はかけなくて済むと思う。先ほどのように、コミュニティーの施設として考えると、正式に計算をしないと分かりませんが、おおよそ、草取り・管理・電気代・維持費として1千万ぐらいかかるのではと思う。地域の人ボランティアで草取りをして頂いたり、掃除をして頂いたりして、維持をしていくという事であれば、もう少し半分ぐらいに抑える事もできるのかもしれない。今後皆さんと一緒に考えていきたいと思う。

事務局： 今後、このような機会を開催する事になりますので、次回はもう少し具体的な案を提示できるような資料を、皆さまにご提供できればと思っております。

最後に皆さまにお願いがございます。ホームページや広報誌で今日開催された事を載せるようにいたします。他の地域ではどうであったとか、情報が知りたい事が多々あるかと思う。こういう意見が出た、こういう答えを出したという事一つ一つ載せるので、ご覧頂き、ご意見頂ければと思う。先ほど、合意形成についてのご意見がありましたが、合意形成するには、問題課題の洗い出しから始まっていくと考えている。それを一つ一つ解決していく事によって目標に向かって進めていくという事ではないかと考えておりますので、今後ともご協力、ご意見をよろしくお願いいたします。

6. 閉会

事務局： 本日は長時間にわたりまして、大変貴重なご意見等をありがとうございました。以上をもちまして閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

以上